

岩手国体ヨット監督と選手

46年ぶりに子弟再会

46年前に宮古湾で行われた国体ヨット競技に出場した当時の宮古水産高選手と監督が再会、地元ヨット選手の活躍を見守った。



「集結」したのは当時、ヨット高校男子の監督をした菅野和夫さん（72）とスナイプ級男子に出場した前川昌二さん、阿部良治さん、佐々木賢哉さん（いづれも64歳）の当時18歳だった宮古水産高の仲間たち。

セーリング競技の行われたヨットハーバーではかつての恩師と教え子が思い出を語りあった。

「先生、あの時も風が

46年前の岩手国体に出場したかつての水高3年は菅野監督（中央）との再会にがっちり握手

なくて参ったよね」「今回もおんなじだなあ」「国体に出られたのは榊コーチのおかげもあつた」。

「あの時は海で負けたら恥だと必死だった」

当時の新聞には「負けぬ技術面 確保したい8位入賞」の大見出しで菅野監督は語っている。

「最も予想つけがたいのはヨット競技。目標を上回るのも下回るのも風しだい」「技術面では他県に負けない自信を選手は持っている」。

レースごとに力を増し6位まで追い上げたが最終レースの第4マークで右側から侵入してきた鹿児島と接触、不覚のミスから棄権した。

菅野監督は当時のスクラップを手に46年前を振り返る。

「宮古湾は難コース。

風と潮との戦いだ」

「先生、また会うべし」。千葉などに住む教え子たちは宮古弁丸出しで、青春時代を懐かしみながら再会を誓っていた。